



迎春

本年もよろしくお願いたします

新年のご挨拶



一般社団法人 岩手県臨床衛生検査技師会
会長 菊池英岳



謹んで新年のお喜び申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

昨年の今頃は大雪で毎日のように雪かきに追われた日々でしたが、今年は今のところ穏やかな年末年始を迎えようとしています。会員並びに賛助会員の皆様におかれましては健やかに新年を迎えられたことをお喜び申し上げます。

2年前に発生した新型コロナは世界各国に蔓延し、日本でも全県で感染が認められ、多数の死者が出て、医療体制のひっ迫が社会問題にもなりました。欧米ではいち早くワクチンの開発が進み日本でも国民のほとんどが二度の接種が終え、その効果(?) かもしれませんが、なんとなく収束傾向に向かっているように見えます。この影響は日本経済だけではなく技師会活動にも影響を受けました。緊急事態宣言下で外出が制限され多くの研修会・学会や公益活動も中止となりました。病院においても、一般診療に制限が掛かったり、検査においても急速PCR検査を導入したり、自らの感染との不安を抱えながら業務だったと心中お察しいたします。その他にも、他県ではありますが検査技師がワクチンの打ち手となって接種率向上に貢献するなど、臨床検査がある意味注目される年でもありました。そんな中、北日本支部学会が昨年度の中止からスライド式で再び岩手開催となり行森学会長を中心に実行委員が一丸となって短い準備期間ではありましたが、初の完全WEB方式の学会を成功裏に終えることができました。部門長をはじめとした実行員の方には心より感謝申し上げます。

また、11月には北日本支部のタスクシフト実務者講習会が仙台で開催され岩手からも6人が出席して県内開催に向け大きな一歩を踏み出しました。2024年以降は検査学校のカリキュラム変更に伴い、タスクシフトの業務が法律上可能となり、それを学校で学んだ学生が現場に配属されるようになってきます。現職の全会員もそれに対応するためにこの講習会を5年間で全員が受講することが喫緊の課題となっています。そのためには役員だけではなく、オール岩臨技として意識を持って取り組む必要となります。これらの成果が臨床検査技師の地位向上と魅力ある検査室実現につながると思います。

結びとなりますが、本年も役員一同で会務にあたりますので、会員並びに賛助会員の皆様何卒ご支援・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。今年が皆さまにおかれまして有意義でご健勝な年でありますよう祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。



(い わ て)

令和3年度 日臨技北日本支部医学検査学会（第9回）報告



学会長 行森 良一
(岩手医科大学附属内丸MC)

本学会は、北日本支部として初めての完全WEB学会で令和3年11月1日（月）～ 11月30日（火）の1ヶ月間開催いたしました。

一般演題は60題、特別講演として諏訪部 章先生、高橋 幹夫先生、気仙ボケー座の講演、日臨技企画は宮島 喜文会長、滝野 寿専務理事に講演していただきました。シンポジウムは「多職種連携とタスクシフト～先進例に学ぶ～」と題して5名の先生の講演、教育講演は10講演14名の先生の講演、その他チーム医療「with COVID-19～コロナ禍でのチーム医療～」、共催セミナーを開催しました。学会事前登録者は776名で予定していたより多くの登録をいただきました。しかし登録だけして聴講しない会員がいたのは、少し残念な気持ちになりました。

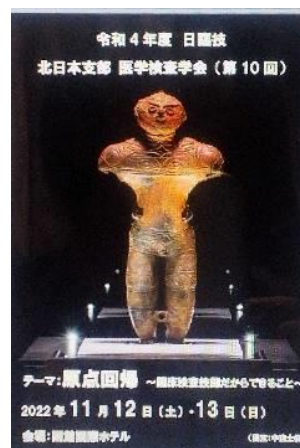
WEB開催のメリットとしては現地への移動が不要となり、都合の良い時間にインターネットの環境があれば視聴でき、複数の企画や一般演題をいつでも繰り返し気軽に視聴できます。またデメリットとしては、懇親会の開催ができないことで、会員相互の交流ができないということなどがあげられます。

本学会のメインテーマは、「融和と協調」サブテーマは～じえねしす（発端）・じえねらる（幅広い知識）・じえねれーしょん（世代）としました。私たちを取り巻く医療情勢も変化し、働き方改革を実践するためにタスク・シフト/シェアが推進されるようになり、私たち臨床検査技師も今まで以上に他職種との連携が求められます。今回の学会が参加された皆様にとりまして、幅広い知識となり、その知識と経験を基に何かを始める発端になったのであれば幸甚です。

さて、次回の日臨技北日本支部医学検査学会（第10回）は、1社）北海道臨床衛生検査技師会担当で開催されます。会期は令和4年11月12日（土）・13日（日）の2日間、函館国際ホテルで開催されます。テーマは「原点回帰」～臨床検査技師だからできること～以上の内容となります。新型コロナウイルス感染症の影響も落ち着き、現地開催で多くの皆様のご参加で、盛会に開催されますようご祈念申し上げます。

末筆ではございますが本学会開催にあたり、ご指導とご協力いただきました日臨技の皆様、北日本支部の皆様、岩臨技の皆様、学会運営関係の皆様、ご参加いただきました会員の皆様、協賛企業の皆様に心から御礼申し上げます。

略儀ではございますがこの書面にて、学会終了のご報告と御礼のご挨拶を申し上げます。



(い わ て)



研修会情報

令和3年度

岩臨技第4回血液検査部門研修会

お知らせ

- 【 内 容 】 第19回認定血液検査技師認定試験受験報告
- 【 日 時 】 令和4年2月18日 17:45-19:00
- 【 場 所 】 WEB開催 (Zoom)
- 【 参 加 費 】 会員、非会員ともに無料
- 【 教 科 ・ 点 数 】 専門教科 20点

令和3年度

岩臨技第2回感染制御部門研修会

お知らせ

- 【 内 容 】
 - ① 岩手県における薬剤耐性 (AMR) の現状
 - ② 痰より髄膜炎菌が分離された一例
 - ③ 令和3年度岩臨技精度管理調査報告
- 【 日 時 】 令和4年2月24日 17:45-18:45
- 【 場 所 】 WEB開催 (Webex)
- 【 参 加 費 】 無料
- 【 教 科 ・ 点 数 】 専門教科 20点



(い わ て)

令和3年度(第27回)
精度管理調査報告会



- 【内容】 岩臨技精度管理調査報告
- 【日時】 令和4年3月4日 17:30-19:40
- 【場所】 WEB開催(Webex)
- 【参加費】 無料
- 【教科・点数】 基礎 20点



学会情報

The 71st JAMT CONGRESS 2022 in OSAKA

第71回 日本医学検査学会 in 大阪

躍動!次代へ繋ぐ臨床検査
~ Challenge for the future ~

令和4(2022)年 **5/21** 土・**22** 日

ATCホール・ハイアットリージェンシー大阪

学 会 長	高田 厚照 (関西医科大学総合医療センター)
実行委員長	増田 詩織 (近畿大学奈良病院)
主 催	一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
担 当	公益社団法人 大阪府臨床検査技師会

- HOME
- ご挨拶
- 開催概要
- プログラム
- 一般演題申込方法および発表形式について
- 特別企画(シンポジウム等)演題・抄録作成について
- 参加登録
- 参加者/発表者/座長へのご案内
- アクセス/宿泊案内
- 協賛企業一覧
- 展示企業一覧
- LINK

臨地実習指導者講習会に参加して

岩手県立中部病院 藤原 教徳

2021年10月31日、WEBで行われた臨地実習指導者講習会に参加しました。

臨床検査技師養成施設では、2022年入学生から教育内容が大きく改正され、特に臨地実習が充実されることになりました。改正後は、臨地実習は12単位以上必須となり、学生に必ず「実施させる行為」と「見学させる行為」、「学生に実施させることが望ましい行為」が明記されました。また、臨地実習施設において臨地実習指導者が在籍していることが必須条件となりました。この臨地実習指導者は、臨地実習指導者講習会を受講することが必要となります。

本講習会は、WEB研修システムを用いた「座学」と「ワークショップ(WEBによるグループワーク)」の2部構成でした。座学は良いとして、グループワークが大の苦手で大嫌いな私にとって最悪の罰ゲームのようでした。極度の嫌気と吐気で受講内容はほとんど記憶にないですが、ガイドラインが策定され、実習内容が標準化されるこのような取り組みは非常にありがたいと感じました。

今後、支部単位でこのような講習会が行われ、臨地実習指導者の養成が進んでいくとのことですので。本講習会修了者は、今後の講習会で何かしら関わることが求められています。今後、そのようなお話がありましたら微力ながら協力させていただければと思います。

受講カリキュラム

臨地実習指導者講習会(座学)		
	内容	時間
導入	新たな指定規則と指導ガイドラインについて	30分
	臨床検査技師養成施設における臨地実習の理念と概念	45分
展開1(教育内容)	臨地実習において学生に実施させる行為について	45分
	医療人に必要なマナーとその指導法について～適切なSNSの使い方など含む	45分
	臨床検査部門における医療安全の確保について	45分
	チーム医療における臨床検査技師の役割	45分
展開2(教育対象)	青年期の心理的な特性を踏まえた臨地実習指導について	45分
	多様な学生の理解とその修学支援～合理的配慮提供～	45分
	臨地実習評価法～臨地実習前の到達度評価含む～	45分
	臨地実習の到達目標と修了基準	30分
	教育指導技法(教育学概論を含む)	45分
まとめ	臨地実習指導者研修をこれからの取組について	45分
ワークショップ(グループワーク)		
	内容	時間
開講説明	演習講義について進め方を説明	10分
演習	臨地実習施設における臨地実習プログラムの立案 臨地実習施設における臨地実習プログラムの立案	180分
	臨地実習プログラム立案の評価	90分
	臨地実習指導者の在り方(ハラスメント防止を含む)	90分
	その他臨地実習に必要な事項	90分
閉校式	今後について	10分



今回の『つなぐ』は岩手県立遠野病院の阿部瑞帆さんです

“つなぐ”

県立中部病院の千葉美怜さんから「つなぐ」を引き継ぎました、県立遠野病院の阿部瑞帆です。千葉さんは同期で、しっかり者なので、この「つなぐ」のお話も早い段階から頂いていたのですが、私はずぼらな人間なため、優しく締切を提示されてからようやく手を付け始めている有様です。いつもご迷惑ばかりおかけしていますが、これからもどうかよろしく願います……。

さて、現在12月……遠野は非常に寒いです。もともと実家は釜石で、高速道路も整備された今となってはすぐに行き来ができ、距離は近く感じてしまいがちなのですが、気候・気温がかなり違うので戸惑っています。水抜きも今まで生きてきて数えるほどしか行ったことがないのですが、厳寒期にはこまめに行わないといけない、と教えて頂いて今後の寒さに怯えている真っ最中です。このまま部屋の寒さや備え付けのストーブが動かなくなってしまったこと、エアコンをつけながらドライヤーを使うとすぐにブレーカーが落ちること、iPhoneの天気アプリで遠野市とオイミヤコンを並べて「オイミヤコンは今日最低温度-53℃かあ、それに比べたら全然暖かいな」と一人で言っていることなども延々と書けそうなのですが、もうちょっと楽しい話も書こうと思います(面白い話なら寒さについての話の方が面白いかもしれません)。アウトドア派の皆さんは各種ウィンタースポーツが楽しい時期なのでしょうか。インドア派で文具好きの自分としては、12月頃は新しい手帳や文具で楽しい時期です。

私は以前から文具が大好きで、ついつい買い集めてしまいます。何に使うの?と聞かれたりもするのですが、主にペンとノートは書くことに、シールやマスキングテープは貼ることに使っています。そうではなく内容的な部分のお話ですが、特に何を書いているという訳でもなく、日記とも言い切れないようなもので、とりとめなく見たものや読んだものの感想を書いたり、聞いた話を書いたりしています。格の低い徒然草ですね。それに加えてかわいいシールやマスキングテープを貼ってコラージュのようなことをしていると、童心に返ったようで癒やされます。返るまでもなく童心から成長できていないだけの様な気もします。今後のコロナウイルスや世界の情勢がどうなっていくのかまだわかりませんが、コラージュなどお部屋の中でできる趣味としておすすめです。やってみると久々の図画工作のようでできっと楽しいですよ。

しかし寒さは厄介なもので、すでに手がかじかんで文字が書けなくなったりシールがはがせなくなったりするなどしています。キーボードを打つことも出来なくなってきたので、このあたりでお話を切り上げさせて頂こうかと思えます。キーボードの部分は嘘です。

次の「つなぐ」は宮古病院の同期、佐々木愛紗さんに引き継がせて頂きます。私ももっと早くお声がけしていればもっとゆっくと時間が取れたはずなのに、年末にどたばたと急なお願いを

(い わ て)

してしまいすみません（しかも私がだらだらと時間を潰したことは依頼の際に伏せていました、すみません……）。それにも関わらず快諾してくださったこと、感謝しています。本当にありがとうございます。何かあったら何でも言ってください。「何でも」は言い過ぎました。できる範囲のことであれば承ります。どうかよろしくお願いします。



～編集後記～

寒さも厳しくなってきましたが、いかがお過ごしでしょうか。内陸で働くようになってしばらくになりますが、なかなか冬の運転は慣れないものです。みなさん、私のようなトトロ運転には怒りの中にも優しさをお願いいたします。

会報作成は2回目となりますが、如何せん創作センスがなくなかなか難しいものです。今回は、頁かせぎに自作自演の荒業にでました。

最後に、今年一年が皆様にとって素晴らしい年でありますようにお祈り申し上げます。（ふじ）

会報「いわて」第334号 2022.1

一般社団法人岩手県臨床衛生検査技師会

発行人：

会 長：菊池 英岳

事 務 局：下川 波歩

編集責任者：藤倉 由規

藤原 教徳

〒020-8505 盛岡市内丸19-1 岩手医大中検内

Tel. (019)613-6111 内線3699 Fax. (019)654-8510

<http://www.iwateamt.or.jp/>

会報専用メールアドレス：

kaiho@iwateamt.or.jp